東北教区報　2022年４月号

あけぼの

発行所
日本聖公会 東北教区
仙台市青葉区国分町2-13-15
TEL 022-223-2349
FAX 022-223-2387
URL http://nskk-tohoku.com/

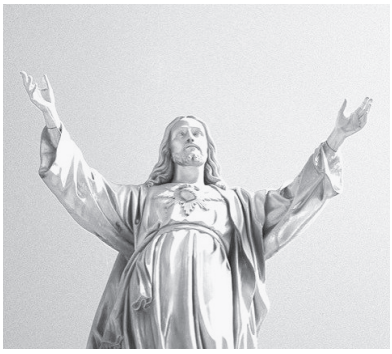
イースターメッセージ
「おはよう、喜びなさい」

主教　ヨハネ　吉田雅人

イエス様が十字架の上で死なれてから3日目の朝、マグダラのマリア、ヤコブの母マリア、サロメ、ヨハナなどの女性たちが、イエス様のご遺体が葬られた墓まで出かけて行きました。彼女たちは、悲しみをはるかに越えたショックを受けていたのですが、訪れた墓でそれ以上の衝撃を受けることになったのです。

1つは墓の前に座っていた天使が「イエス様は墓の中にはおられない。復活なさったのだ。弟子たちに復活されたことを知らせなさい」という意味のことを告げたのです。そればかりか、今度はイエス様が彼女たちの行く手に現れ、「おはよう」と言われたのです。確かに早朝ですから「おはよう」かもしれませんが、この状況の中でいくらイエス様でも「おはよう」はないんじゃないかと思われませんか。

この「おはよう」と訳されているカイローという言葉は、「平安を祈る」という挨拶言葉で、「喜ぶ」とか「喜び祝う」とも訳せる言葉です。例えばルカ伝で、失われた1匹の羊を見つけ出した羊飼いが、村の人々に「一緒に喜んでください」と言った、あの「喜び」と同じ言葉なのです。



そうしますと、このイエス様の「おはよう」は単なる朝の挨拶ではなく、「喜び祝いなさい」という意味なのではないでしょうか。では彼女たちは、そして私たちは、何を喜び祝えばよいのでしょうか。

その1つは、ご復活の最初の証人として選ばれた彼女たち、意味不明な天使の言葉を弟子たちに伝えに行こうとしていた彼女たちの行く手にイエス様が立っておられて「おはよう、喜びなさい」と言われたことです。つまり悲しみと混乱の内にある人々の前に、イエス様は先回りして待っていてくださったのです。

もう1つの喜びは、この後イエス様が彼女たちに「行って、わたしのきょうだいたちにガリラヤに行くように言いなさい」と言われたことです。イエス様が言われる「わたしのきょうだいたち」とは、「弟子たち」のことでしょう。その弟子たちとは、宣教の初めからイエス様に召し出されていたにも拘わらず、勘違いばかりでイエス様のことが分かっていなかった弟子たち。「今夜、あなたがたは私につまずく」とイエス様に言われて、ペトロをはじめ全員が声をそろえて、「たとえ、ご一緒に死なねばならなくなっても、あなたのことを知らないなどとは決して申しません」と大見得を切ったあの弟子たち。イエス様が逮捕された途端、蜘蛛の子を散らすように逃げ去り「イエスなど知らない」と自己保身のためにイエス様を見捨てたあの弟子たちのことです。そのような弟子たちですら、ご復活のイエス様は、「わたしのきょうだいたち」と呼んでくださるのです。

この「おはよう、喜びなさい」というイエス様の呼びかけは、２０００年前の出来事であるだけでなく、今、この時にイエス様を「主」と呼ぶ私たちに対する呼びかけでもあります。いつ、どんな時にも、ことに私たちが悲しみや混乱のうちにあるときに、イエス様は私たちに先立って待っていてくださり、「喜びなさい」と慰めの言葉をかけてくださるのです。そして、このような私たちをも受け入れて、「わたしのきょうだいたち」と呼びかけてくださるのです。

このイエス様が、今日よみがえられたことを、心から喜び、お祝いしたいと思います。

（東北教区主教）

2023年 日本聖公会宣教協議会 ぶどうの枝だより①

「2023年日本聖公会宣教協議会について」

主の平和がありますように。

日本聖公会宣教協議会実行委員会です。今後、各教区の教区報の紙面を定期的にお借りいたしまして、宣教協議会のテーマや具体的なプログラムについて、また1995年と2012年に開催された宣教協議会で協議されて分かち合われてきたことについてお伝えさせて頂きたいと思います。

主イエス様は「私はぶどうの木、あなたがたはその枝である。」（ヨハネ15：5）と言われました。「ぶどうの木」であるイエス様とつながり、そこから伸びていく「ぶどうの枝」である日本聖公会に連なる皆様お一人お一人とご一緒に協議会の準備を進めていきたいという願いからタイトルを「ぶどうの枝だより」としました。第1回は「2023年宣教協議会について」これまで準備してきた事についてお知らせいたします。

これまでの経緯

2020年10月の日本聖公会第65（定期）総会において、2022年11月に清里で宣教協議会が開催されることが決議されました。この決議をもとに構成された実行委員会は、オンラインミーティングを重ねて、準備を進めています。また、2021年9月9日（木）・10日（金）・10月7日（木）・8日（金）の4日間にわたり、各教区の宣教担当者とオンラインにて意見交換を行いました。

話し合いの中で、たくさんの課題と恵みが見えてきました。新型コロナウイルス感染拡大の影響により、実行委員会は、対面での集まりを一度ももつことができていません。そのような状況下で、また2022年の新型コロナウイルス感染状況が見通せない中、大勢が対面で集まることが可能かどうかという、プログラムを作る上での課題がありました。そして何より、皆様との対話の場の設定が必要でした。宣教協議会の準備は、各教会や教区、諸施設も含め、日本聖公会に連なる皆様一人一人との対話の中で、深められ、多くの方々と一緒に、進められていくことが必要だと考え、実行委員会は1年間の開催延期を提案し、主教会と常議員会で承認を頂きました。

アンケートへのご協力ありがとうございました

2021年4月から6月にかけて、各教区・教会・関連施設・管区の委員会の皆様には、アンケートにご協力頂きました。それは2012宣教協議会からの「10年の実り」や、様々なご意見をお寄せいただくものでした。アンケートの回答は、実行委員会にて常に参考にさせて頂きたいと思います。なお、アンケートの回答結果については「2023年日本聖公会宣教協議会ブログ」にて公開されていますのでご覧下さい。

大切にしていきたいこと・これからの予定

宣教協議会の実施にあたっては、以下のことを大切にしていきたいと思います。また、今後の予定についてもお知らせします。

○皆様と思いを分かち合い、共に祈り、つながるプロセスを大切にします。宣教協議会は1年半先のことではなく、すでに今、この瞬間に始まっていると、考えていただければと思います。

○〈ぶどうの枝だより〉として、『管区事務所だより』、各教区報や、ブログ、Face bookなどで情報を発信していきます。

○〈ぶどうの枝分科会〉として、2カ月に1度、様々なテーマの分科会（管区の各委員会代表者、青年委員やU26運営委員、各教区青年担当者、関連施設チャプレンなど）を行います。

○〈ぶどうの枝協議会〉として、2022年8月22日（月）～23日（火）に、各教区宣教担当者や管区諸委員と実行委員会が対面で集まり、今後の道筋を分かち合う予定です。

○宣教協議会の最終日としての全体会を2023年11月10日（金）～13日（月）の3泊4日、清泉寮（山梨県清里）にて開催いたします。

東日本大震災被災者支援プロジェクト報告

1月、2月は新型コロナウイルスの影響を受けて、公開の礼拝休止と同様に、当プロジェクトの地域支援も休止せざるを得ませんでした。顔を合わせられないもどかしさが募ります。

二つの署名のご協力、有難うございました。「アルプス（ALPS）処理水海洋放出に反対する署名」（コープふくしま）は、昨年12月7日に10万筆を超え本年2月には経済産業省と東京電力に提出予定でしたが、まん延防止等重点措置が全国に広がり延期となりました。2月28日現在16万筆超を数えて、政府と東電には3月下旬に提出して要請行動する計画です。

「青森県を高レベル放射性廃棄物の最終処分地としない条例制定を求める署名」（制定を求める県民の会）は12、707筆（2月8日現在）、本年9月青森県議会提出を見据え、10万筆目標達成に向けて署名活動を強化します。更なる呼び掛けをお願いします。

シリーズ
わたしの道の光

「同志会の思い出と感謝・惜別」

仙台基督教会
パトリック　島田　明夫

私は、横浜の高校で聖書研究会に所属してそれを機に入信しました。その時に非常に感銘を受けた聖句は、コリントの信徒への手紙１：13章４節からの「愛は忍耐強い。愛は情け深い。ねたまない。……」でした。当時私は、高校生聖書伝道協会というプロテスタント系のスタッフの方から、こういわれました。「この句の『愛』のところを『私は』と言い換えて人前で話せますか？」。とても出来ません。私は自分の「原罪」を強く認識してイエス・キリストによる救いを求めたのでした。

その伝道協会から、あるプロテスタント教会を紹介され、しばらくそこの礼拝に参加していたのですが、その教会は極めて政治色が強く、ノンポリの私は、なかなかついてゆけない感じでした。このため、しばらく教会を離れることになりました。

その後、大学生になってから、東京都文京区に所在する財団法人同志会の学生寮に入寮して学生生活を送ることになりました。この同志会は、日本聖公会に連なる男子学生のミッション寮で、１９０２年、初代会長阪井徳太郎氏によりキリスト教主義に基づく清光和楽なる家庭として創設された伝統ある寮でした。同志会は、寮生に「三義務」を課していました。

一、早祷（毎朝７時からの朝のお祈り）出席。二、金曜会（毎週金曜日夕方からの礼拝）出席。三、日曜礼拝（いずれかの教会）出席。日曜礼拝では、聖テモテ教会をはじめとして、多くの宗派の諸教会の礼拝に出席しました。

卒業後、建設省に入省して仕事に追われていたこともあって、しばらくは教会から遠ざかっておりましたが、２０１０年８月から東北大学教授として仙台に赴任して、その半年後に東日本大震災に遭遇してからは、学生たちを連れて被災地を飛び回っているさなかで、自分の無力さを痛感していました。そんな中で還暦を迎えたこともあって、そろそろ教会に落ち着いて、自分を見つめ返しながら信仰生活を送ってゆこうと決心して、日本聖公会仙台基督教会の門を叩いた次第でした。このような私を教会の皆様はとても暖かく迎えてくださいまして、復活祭の日には洗礼・堅信を受けさせていただきました。礼拝後の昼食をとりながらの信徒の交わりは、私にとりまして、大変有意義な時間となりました。コロナ禍でこの交わりができなくなったことが誠に残念でございます。

しかしながら、私も65歳になりました。この３月末で大学を定年退官することとなりました、４月からは埼玉の自宅に戻って聖テモテ教会の礼拝に出席するとともに同志会を支えていく予定です。この間、皆様から頂きました数々のご厚情に深く感謝するとともに、惜別のことばとさせていただきます。

公　　示

救主降生2022年３月９日
日本聖公会東北教区主教
主教　ヨハネ　吉田　雅人㊞

下記の人事異動を発令します。

司祭　ヨハネ　八木　正言
2022年４月１日付　願いにより、東京教区からの転入を許可する。

司祭　パウロ　松本　正俊
2022年４月１日付　司祭 ヤコブ 林　国秀のもとで、小名浜聖テモテ教会において嘱託司祭として勤務することを委嘱する。ただし、法規第53条第２項に基づき、任期を１年間とする。

主教　ヨハネ　佐藤　忠男
2022年４月１日付　司祭 フランシス 長谷川清純のもとで、青森聖アンデレ教会および弘前昇天教会において礼拝協力を委嘱する。また司祭 ステパノ 越山哲也のもとで、大館聖パウロ教会において礼拝協力を委嘱する。ただし、法規第53条第２項を準用し、任期をいずれも１年間とする。

主教　ヨハネ　加藤　博道
2022年４月１日付　司祭 ヨハネ 八木正言および司祭 ドミニコ 李　贊熙のもとで、仙台圏における礼拝協力を委嘱する。また、司祭 ドミニコ 李　贊熙のもとで山形聖ペテロ教会において礼拝協力を委嘱する。ただし、法規第53条第２項を準用し、任期をいずれも１年間とする。

北から南から

八戸聖ルカ教会

1月21日、パウロ山路瑞彦兄が天国に召されました。八戸聖ルカ教会の「父ちゃん」として慕われてきました。

中学校に教員として勤務しながら、キリスト教の学習塾での指導・経営に関わりました。決して楽ではなかったはずですが、教員退職後も学習会を継続し、60年以上、奉仕されました。神の愛を説き、神に愛され、信仰一途に歩み続けた伝道の人生は、八戸聖ルカ教会の誇るべき歴史です。

秋田聖救主教会

秋田はようやく雪解けが始まりましたが、今年は例年にない積雪で除雪が進まない歩道が踏み固められ高くなり、普段は見えない塀の向こうまでが見えてしまう状態です。それでも春は近づきつつありますが、時期が来れば去ってゆく冬と違い、感染症はいまだに脅威となっています。緊迫感は薄れていますが、過去最高の感染者が出ています。今年は心配なく復活日を迎えられることを祈っています。

仙台聖フランシス教会

今年こそは中止なく礼拝を捧げることができるよう願いましたが、コロナ感染が再拡大し、教会も礼拝の再開や中止を繰り返しながらの信仰生活を続けています。

そのような中、2月から日曜学校礼拝をｗｅｂで行うことになりました。日曜学校が大好きなのに来ることができない子どもたちのために、先生方がアイデアを出し合い準備をしました。一日も早く教会で日曜学校が開けることを願います。

小名浜聖テモテ教会

堅信受領者総会を1月23日に無事終了できたと思っていたところ、1月末に「まん延防止等重点措置」が県内に施行され、集会自粛で主日礼拝もできない状態が続いています。3月6日まで延長が決まり、テモテ幼稚園の保育発表会は感染防止対策を十分に考慮し、年少、年中、年長と時間差で密にならないように、全体的にはビデオ収録をして各家庭にお渡しすることになりました。

主に感謝いたします。

常置委員会報告（第4回・2月16日）

◇常置委員長報告

1月25日開催の北海道教区・東北教区合同常置委員懇談会の報告。公開の礼拝休止についてこの間の協議報告。

◇執行機関報告

主事会議報告。教区財務状況について前回以降の進捗状況を報告。

◇協議事項

(1) 2022年度信徒奉事者（※以降は分餐奉仕協力許可含）推挙について。マーガレット若生伸子、ラケル中村みどり、マルタ目黒かおり、バルナバ吉村哲夫、※バルナバ赤坂有司、セント・クリストファー赤坂聖矢、ステパノ西重明、パウロ福士正明、グレース山崎梨可、パウロ有我忠幸、以上10名の推薦が仙台基督教会からあり、これを適格とし教区主教に推挙。

(2) 次期主教選挙を行うかどうかへの道程に関する件

4月の研修会開催を目指して、内容の確定、開催方法・形式を次回常置委員会にて決定することとした。

永遠の平安

クララ　鎌田　邦子（1月31日・盛岡）
ハンナ　坂水　勢惠子（2月2日・盛岡）
アンデレ　加藤　昭夫（2月17日・盛岡）

4月逝去者記念聖餐式

4月5日(火)　午前10時～　於　主教座聖堂
司式　吉田　雅人　主教
説教　吉田　雅人　主教

司祭　ヨハネ落合　吉之助
1942年4月1日逝去
司祭　稲垣　陽一郎
1949年4月1日逝去
宣教師　Miss Gladys V. Gray
1978年4月2日逝去
主教　John Mckim
1936年4月4日逝去
司祭　田井　正一
1927年4月6日逝去
司祭　ヨシュア大野　敏之
1971年4月8日逝去
司祭　松田　輝三雄
1977年4月10日逝去
伝道師　織間　小太郎
1934年4月15日逝去
宣教師　Miss Georgie Suthon
1941年4月15日逝去
司祭　イスラエル・ヤコブ　加藤　泰治
1970年4月16日逝去
執事　北沢　繁松
1934年4月21日逝去
司祭　森　滉
1934年4月22日逝去
司祭　早川　喜四郎
1943年4月23日逝去
伝道師　マリヤ・マグダレン　神﨑　ゆき
2007年4月23日逝去
執事　Dorothea V. Carlson
1928年4月27日逝去
司祭　小林　彦五郎
1944年4月29日逝去
司祭　Robert W. Andrews
1962年4月29日逝去
伝道師　マリア　鈴木　八重
1991年4月29日逝去
宣教師　Mrs. Lora Gladys Clifford
1929年4月30日逝去
司祭　John Gage Waller
1943年4月30日逝去